

情報Ⅰ シラバス

科目	情報Ⅰ	単位数	2単位
使用教科書	—新編—情報Ⅰ（東京書籍 701）	学年・学級	1学年全クラス
副教材	—新編—情報Ⅰ資料ノート（東京書籍） 情報モラルテーマ21（東京書籍）		

1. 科目の目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。

2. 評価の観点

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけるとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

3. 学習内容

学期	単元 教材	学習内容	身につける力
1	情報で問題を解決する	情報とメディアの特性 問題解決・発想法 情報モラル 個人情報の流出 著作権 情報技術の発展 情報化と私たちの生活の変化	伝える情報に対して適切な表現メディアを判断する。 インターネットを利用する際に守るべき決まり事について理解する。 著作権の利用について保護されているかどうか判断し、許諾や引用が必要な場合に正しい方法で表現する。 身の回りの情報技術の活用場面について、その仕組みについても科学的に理解する。
	情報を伝える	コミュニケーション手段の変化 ネットコミュニケーションの特徴 デジタルの世界へ 情報デザイン	ネットコミュニケーションの特徴を理解する。 デジタルとアナログの違いを説明できる。 Webサイトの階層構造が分かる。 デザイン思考の流れについて理解する。
	コンピュータを活用する	コンピュータとはなにか ソフトウェアの仕組み プログラム	コンピュータの仕組みに興味を持つ。 ソフトウェアの働きを理解する。 考えたことをプログラムに表現することができる。
	データを活用する	ネットワークとインターネット 情報セキュリティ データの形式	データの性質を適切に判断してアンケートに表現することができる。

4. 学習のワンポイントアドバイス

- ①Teams アプリを使用して授業をします。アカウント情報を早く覚えましょう。
- ②授業で学んだ知識や身につけた技術を、日常生活で活かしたり、将来に役立てられるよう、学んだことをできるだけ実践し、誰かに教えるようにしましょう。
- ③情報伝達や情報収集において、効果的にコンピュータを活用できるよう、1年間でタッチタイピングを必ず習得しましょう。

表現メディアの編集と表現 シラバス

科目	表現メディアの編集と表現	単位	2	対象	3年選択
目標	コンピュータによる表現メディアの編集と表現に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。				
学習内容	<p>アプリケーションソフトウェアによる実習を通して表現メディア（文字・図形・静止画・音・動画）の特性やコンピュータによる編集等に必要な基礎的な知識と技術の習得を図る。</p> <p>「コンピュータグラフィックスの制作」では「PhotoShop Elements」を使用し、フォトレタッチやアニメーションの基礎的な知識と技術の習得を図る。</p> <p>「音・音楽の編集と表現」ではフリーソフトによる実習を行い、音声の基礎的な知識と技術の習得を図る。</p> <p>「映像の編集と表現」では「Movie Maker」や「Premiere Elements」による実習を行い、フリーソフトと有料ソフトの機能や操作の違い、映像編集の基礎的な知識と技術の習得を図る。</p> <p>それぞれ作品制作を行い、コンピュータを用いた表現の知識と技能を身に付ける。</p>				
学習のワンポイント・アドバイス	<p>身の回りにあふれているマルチメディアに注目し、その目的や効果、自分でも作れるものなのかを考えながら日々を過ごし授業に参加して欲しい。基礎操作等における個人差が出るほど特別な操作はない。主体的に授業に参加し、学習意欲・創造意欲を高めて欲しい。</p>				
評価の方法	<p>次の（１）～（３）を総合的に判断して評価する。</p> <p>（１） 課題ファイル</p> <p>（２） 作品</p> <p>（３） 日々の授業態度（実習・演習に意欲的に取り組んでいるか等）</p>				
使用する教科書、教材等	<p>オリジナル教材</p>				
進路との関わり	<p>現在はテレビ・インターネット・スマートフォンなど、あらゆるメディアで表現技術が必要とされるようになっている。学生・社会人ともに、表現するための創造力、技術が求められている。実習を通して操作技術・表現力を高め、進学・就職に活用・活躍の機会がめぐってくるはずです。</p>				